

「お茶大インデックス」（雇用環境整備指標）を用いた教育研究機関の雇用環境評価 2012 年度 結果

「お茶大インデックス」を用いた教育研究機関の雇用環境評価を実施した。調査概要は以下の通り。

調査実施日：2012 年 11 月 29 日（木）～2013 年 1 月 21 日（月）
 調査方法：Excel で回答可能な「お茶大インデックス」をメールにて送付・回収
 配布機関数：科学技術振興調整費・女性研究者支援モデル育成事業（2006～2010 年度）採択 55 機関、
 及び女性研究者研究活動支援事業選定（2011 年度）20 機関の計 75 機関
 回収数：36 機関（回収率 48.0%）

お茶大インデックス評価結果 36 機関の回答割合

36 機関のお茶大インデックス評価結果について、50 項目それぞれに平均値と回答割合を算出した。回答割合を用いて図 1 を作成した。

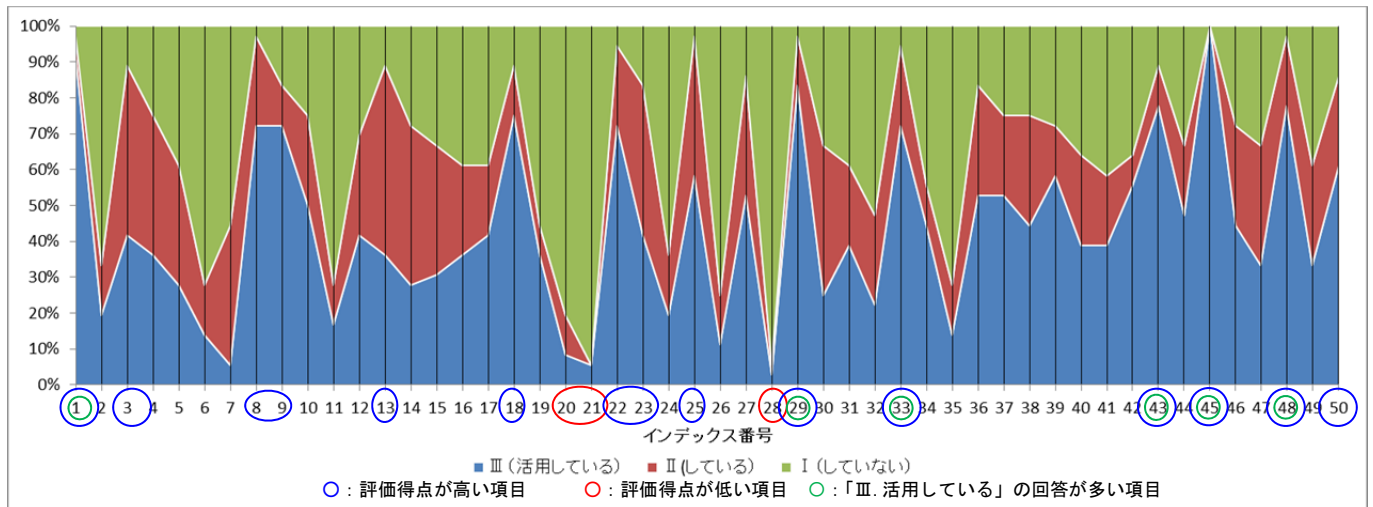


図 1. お茶大インデックス評価結果（全 36 機関、回答割合）

36 機関における実施度の高い取組（Ⅲ.活用している、Ⅱ.している）、低い取組（Ⅰ.していない）、活用度の高い取組（『Ⅲ.活用している』の回答が多い項目）は以下の通り。（カッコはインデックス番号を示す）

実施度の高い取組

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| (1) 女性研究者を支援する組織の設置 | (23) 育児期における職務軽減制度の導入 |
| (3) 公正で透明性の高い公募を行うためのシステムの導入 | (25) 『次世代育成支援対策行動計画』の周知 |
| (8) 女性研究者における研究分野別・職階別の女性比率の把握 | (29) 子育て中の女性研究者を支援するための研究補助者の配置 |
| (9) 子育てを支援するための予算の配分 | (33) ホームページによる情報発信 |
| (13) 男性が育児休業制度を積極的に取得することを周知 | (43) 全職員向け女性研究者を支援するための情報発信 |
| (18) 保育施設の設置 | (45) ハラスメントを防止するための取組 |
| (22) 育児期における柔軟な勤務体制の導入 | (48) 男女共同参画に対する意識啓発 |
| | (50) ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた意識啓発 |

実施度の低い取組

- | | |
|---------------------------|-----------------------------------|
| (20) 学童保育施設の設置 | (28) 学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制度の導入 |
| (21) 子育てを支援するための学内宿泊施設の整備 | |

活用度の高い取組

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| (1) 女性研究者を支援する組織の設置 | (43) 全職員向け女性研究者を支援するための情報発信 |
| (29) 子育て中の女性研究者を支援するための研究補助者の配置 | (45) ハラスメントを防止するための取組 |
| (33) ホームページによる情報発信 | (48) 男女共同参画に対する意識啓発 |

実施度の高い取組は、昨年度（2011）と同様に「支援組織の設置」、「透明性の高い公募システムの導入」、「女性比率の把握」、「予算配分」、「柔軟な勤務体制の導入」、「研究補助者の配置」、「情報発信」、「意識啓発」であった。なお、インデックス番号(13)、(18)、(23)、(25)は昨年度よりも回答割合が高くなり、育児に関する制度や施設の整備、それらに関連する情報の周知が加速したと推察できる。

一方、実施度の低い取組は、昨年度と同様に「学童保育」、「宿泊施設」、「奨学金制度」であり、人材、費用、設置場所等が必要な取組は未だ整備が困難であることがわかる。

「Ⅲ.活用している」の回答が多くみられたのは、「支援組織の設置」、「研究補助者の配置」、「情報発信」、「意識啓発」であり、これも昨年度と同様の結果であるが、インデックス番号（12）定時帰宅日の設定、(30) 女性研究者を支援するためのメンター制度の導入、(33) ホームページによる情報発信の回答割合は昨年度と比較して 10～15%ほど増加する傾向がみられた。

上記の結果から、教育研究機関では、①支援組織を設置、②予算配分や研究補助者を配置、③機関内で所有する情報（女性比率等）を整理して積極的に機関内外に発信、④意識啓発を実施することにより、雇用環境を整備し、女性研究者を支援していることが明らかとなった。また、育児に関する制度や施設の整備、メンター制度、定時帰宅日の設定、ホームページによる情報発信は昨年度と比較して実施率が高くなり、活用されやすいことがわかった。

お茶大インデックス 評価の経年変化

お茶大インデックス評価の経年変化を見るために、36 機関のうち昨年度（2011）も回答いただいた 19 機関についてのみ 2011 年度と 2012 年度の評価得点の差を算出し、得点の増減を示す図 2 を作成した。

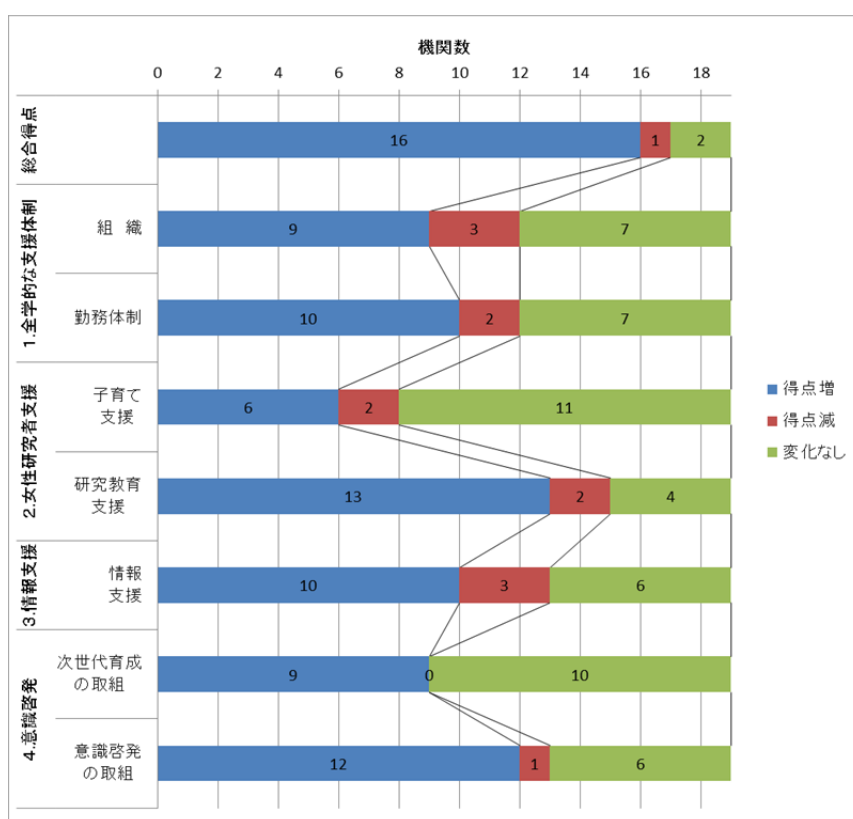


図 2. 19 機関におけるお茶大インデックス評価得点の増減

総合得点では、19 機関中 16 機関で得点増が認められた。多くの機関で得点の増加が認められた項目は、「研究教育支援」（13 機関で得点増）や「意識啓発の取組」（12 機関で得点増）、「勤務体制」や「情報支援」（ともに 10 機関で得点増）などであった。

変化の詳細を確認するために、50 項目のインデックス評価得点それぞれにおいて 2011 年度評価と 2012 年度評価の得点差を算出し、得点の増減を示す図 3 を作成した。

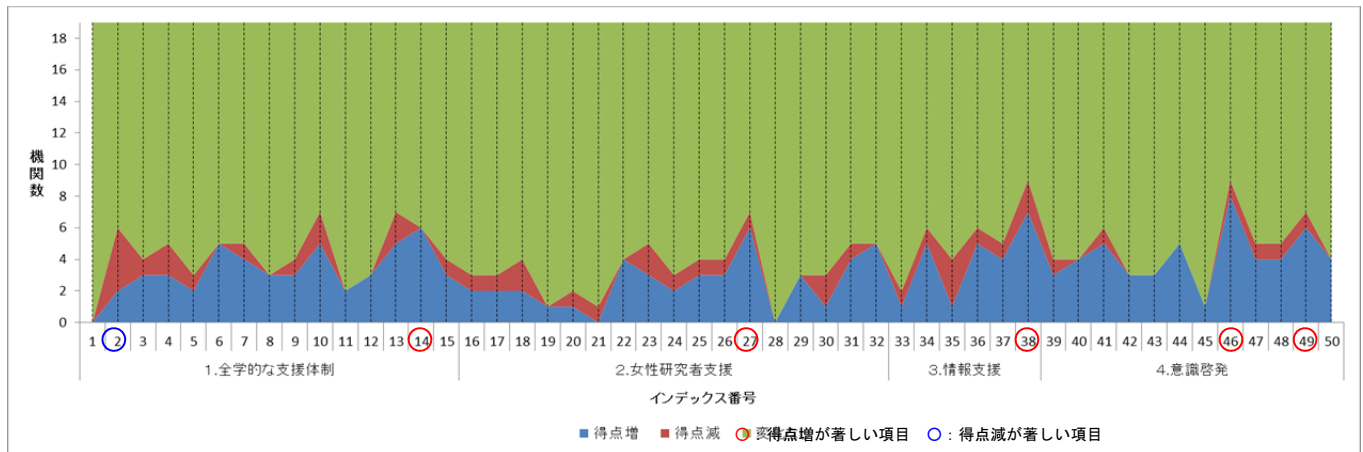


図 3. 18 機関におけるお茶大インデックス 50 項目の評価得点の増減

得点の増加が最も多いのは、インデックス番号（46）男性向け子育て支援に関する意識啓発であり、次いで（38）女性研究者間のネットワークの構築、（49）ダイバーシティを理解するための意識啓発、（27）子育てと研究のための相談窓口の設置、（14）実労働時間に関する調査であった。

一方、（2）外部評価委員会の設置は得点が下がる傾向が認められた。これは、女性研究者支援事業の最終年度に外部評価委員会を結成するものの、その後は解散する傾向があるために生じた結果と考えられる。

図 3 からわかるように、得点減の項目は非常に少なく、2011 年度における 19 機関の総合得点平均値は 50.79 点であったのに対して 2012 年度は 58.26 点と上昇していることから、各機関が支援活動に力を入れている様子が窺える。

お茶大インデックス評価結果 評価得点上位 10 機関・下位 10 機関の特徴

36 機関のうち、インデックスの評価得点上位 10 機関（71.9 点/100 点中）の回答割合を用いて図 4 を作成し、評価得点下位 10 機関（32.7 点/100 点中）の回答割合を用いて図 5 を作成した。

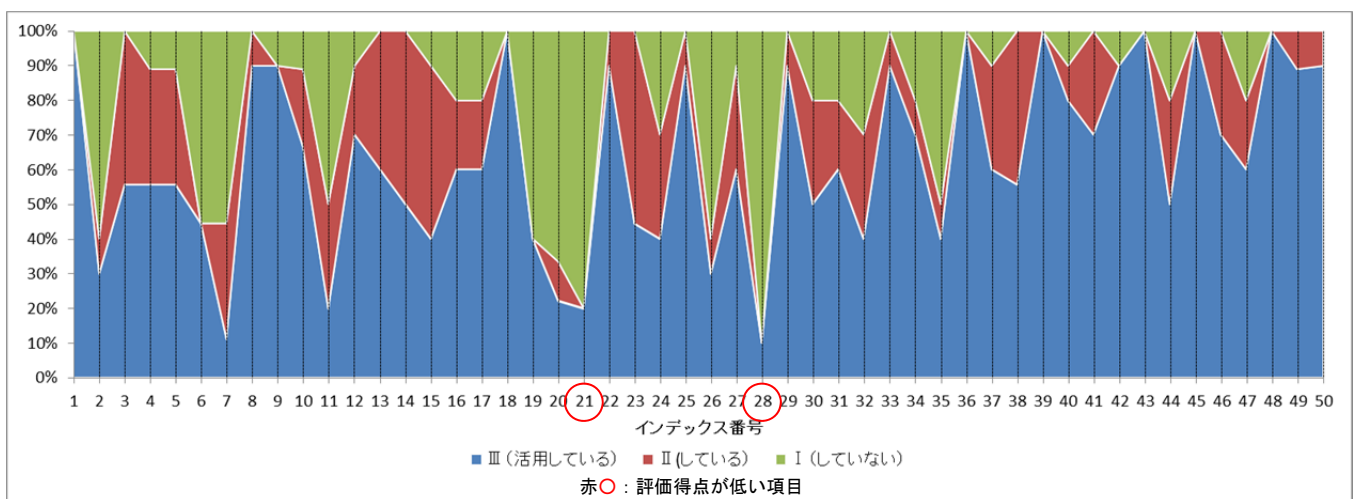


図 4. お茶大インデックス評価結果 （得点上位 10 機関）

図 4 から、得点上位 10 機関においても（21）子育てを支援するための学内宿泊施設の整備、（28）学生・院生に対する子育て支援のための育児奨学金制度の導入は「していない」の回答が多く、支援体制が整備されている機関においても未だ実施が困難であることがわかる。

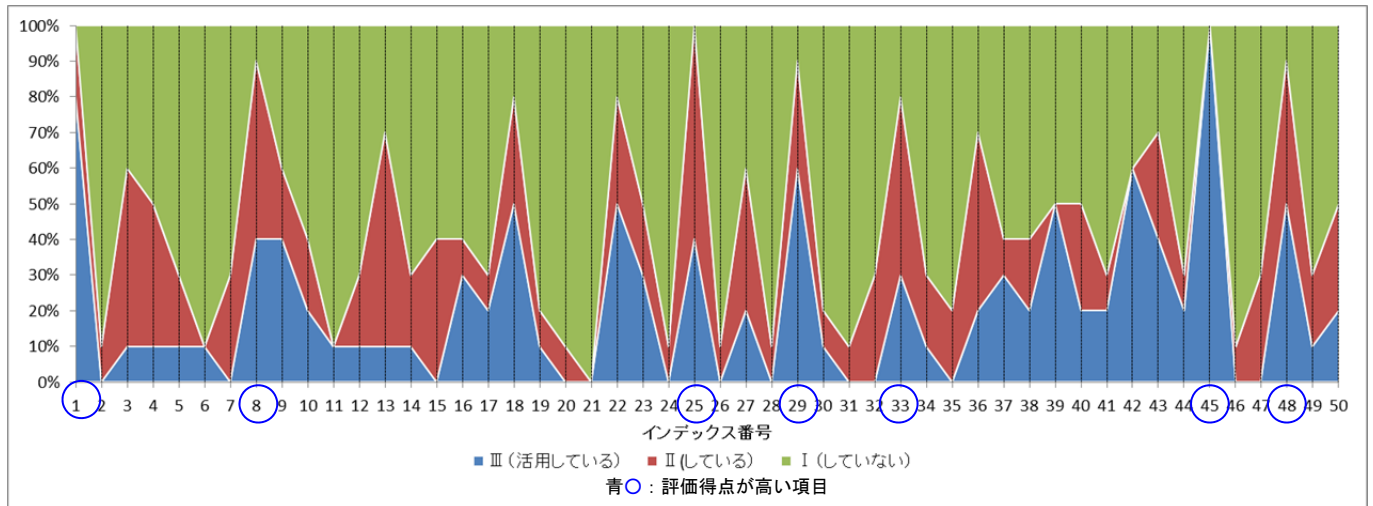


図 5. お茶大インデックス評価結果 (得点下位 10 機関)

一方、図 5 を見ると、得点下位 10 機関においてもインデックス番号 (1)、(8)、(25)、(29)、(33)、(45)、(48) など、「女性研究者を支援する組織」や「女性比率の把握」、「『次世代育成支援対策行動計画』の周知」、「研究補助者の配置」、「ホームページによる情報発信」、「ハラスメント防止」、「男女共同参画に対する意識啓発」の得点は高く、これらは比較的实施しやすい、もしくは女性研究者支援の初歩的な取組として実施されていると推察できる。中でもインデックス番号 (1)、(29)、(45) は「Ⅲ.活用している」の回答割合は高く、支援が有効に活用されていることがわかる。

なお、評価得点上位 10 機関は 2006 年度～2010 年度採択機関であり、評価得点下位 10 機関の 8 割が平成 2011 年度～2012 年度採択機関であることから、女性研究者支援事業の 3 年間で雇用環境はおおよそ整備でき、女性研究者支援事業終了後も独自の事業として継続・発展させていることがわかった。

お茶の水女子大学における お茶大インデックス評価結果

お茶の水女子大学は、女性研究者支援モデル育成事業（2006～2008 年度）を経て、2009 年度より本学独自の事業として雇用環境の整備と研究者支援を継続・発展させてきた。昨年度（2011）の総合評価得点は 62 点であったが、今年度（2012）は 68 点となった。得点の増加がみられたのは以下の 5 項目である。なお、得点減の項目は見られず、これまでの支援活動が維持・拡大される結果となった。

<得点の増加がみられた項目>（カッコはインデックス番号を示す）

(6) 女性を管理職に登用するシステムの導入

⇒評議員を学長が指名できる制度を導入、教育研究評議会における女性比率 36.4%（2012 年 8 月現在）

(32) 研究補助者のキャリアアップ支援

⇒2012 年 7～8 月に研究補助者向けパソコン講習会を開催

(41) 女子中高校生向けロールモデルとの交流会の開催

⇒サイエンスフェスティバルでの OG パネリストおよび在学生との交流会を開催、

「科学への誘いセミナー」での OG 講演会および在学生との交流会を開催

(46) 男性向け子育て支援に関する意識啓発

⇒学内保育所の子どもたちと触れ合う企画を開催、男性教職員が参加

(49) ダイバーシティを理解するための意識啓発

⇒グローバル女性リーダー特論などの大学院生・社会人向け講座を開設

女性研究者支援モデル育成事業が開始されて6年が経過した。今回の調査から、女性が働きやすい雇用環境は、女性研究者支援事業の実施期間である3年程度でおおよそ整備でき、事業終了後も各機関が独自の事業として継続・発展している現状を明らかにすることができた。今後、女性研究者支援事業実施機関が協力してその成果を広く社会に波及し、多くの教育研究機関で取組が開始されるよう努力することが必要と言える。

【付録】 お茶大インデックス評価結果 総合得点一覧

お茶大インデックスの評価結果（表1）を総合得点の降順に示す。総合得点の平均点は54.6点（昨年度より1.7点増）、最高点は77点、最低点は16点であった。

表1 お茶大インデックス 評価結果 (総合得点降順)

ID	「お茶大インデックス」得点							
	総合得点	1.全学的な支援体制		2.女性研究者支援		3.情報支援	4.意識啓発	
		組 織	勤務体制	子育て支援	研究教育支援	情報支援	次世代育成の取組	意識啓発の取組
最高点	100	18	12	12	22	12	8	16
2011_008	77	11	9	6	19	9	8	15
2011_017	76	15	12	6	11	8	8	16
2011_030	76	9	10	10	17	8	8	14
2011_012	74	12	8	9	13	9	8	15
2011_006	73	9	10	2	20	8	8	16
2011_021	72	14	9	6	13	11	6	13
2012_033	69	15	6	9	11	9	7	12
お茶の水女子大学	68	14	8	7	13	8	7	11
2011_019	67	14	6	4	13	11	5	14
2012_045	67	9	4	6	14	12	7	15
2012_046	67	9	11	8	13	8	3	15
2011_026	66	13	7	6	14	8	6	12
2012_039	66	9	10	8	14	10	0	15
2012_038	64	11	10	4	13	10	0	16
2011_004	62	9	6	6	13	7	8	13
2011_010	62	12	5	5	12	10	6	12
2011_015	61	14	6	3	10	7	8	13
2011_002	59	10	8	5	13	7	7	9
2012_043	58	14	5	8	10	5	2	14
2012_034	54	9	8	4	10	8	2	13
2012_035	54	11	10	4	10	6	1	12
2012_040	52	9	7	5	11	5	6	9
2012_041	52	12	0	4	16	6	0	14
2011_020	50	7	5	3	13	8	5	9
2012_037	46	9	5	5	11	8	1	7
2012_044	46	12	4	2	11	4	1	12
2012_036	43	7	5	4	7	4	8	8
2011_001	41	6	1	6	7	3	6	12
2011_023	41	8	1	2	13	8	2	7
2012_048	40	13	9	2	6	4	2	4
2011_016	37	8	4	4	6	6	1	8
2012_047	31	4	2	2	7	3	7	6
2011_014	29	5	1	2	8	5	2	6
2012_042	29	5	2	2	5	3	6	6
2012_032	20	5	3	2	5	1	0	4
2011_007	16	3	0	3	4	2	0	4

謝辞：本調査を実施するにあたり、多くの皆様にご協力を賜りました。心より感謝の意を表します。